

Title	日本の労働市場の調整機能：入職・離転職と外国人労働者
Author(s)	勇上, 和史
Citation	大阪大学, 2001, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/43294
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	勇 上 和 史
博士の専攻分野の名称	博 士 (経済学)
学位記番号	第 1 6 5 7 9 号
学位授与年月日	平成13年11月30日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 経済学研究科経済理論専攻
学位論文名	日本の労働市場の調整機能 —入職・離転職と外国人労働者—
論文審査委員	(主査) 教授 猪木 武徳 (副査) 教授 杉原 薫 教授 大竹 文雄

論 文 内 容 の 要 旨

この論文は、入職・離転職、外国人労働者の流入といった労働力需給の変化が、「質」の評価と価格（賃金）づけを通して、どのように市場調整を行っているのかを考察している。

第1章では、転職者の技能と賃金の関係について、過去の経験が転職時にどの程度評価され、その後も活かされているかどうか、すなわち効率的な転職が行われているかどうかを考察した。その結果、転職者は過去にどのような職能を長く経験してきたかによって、転職直後およびその後の処遇に差が生じること、さらに中高年労働者では過去の経験による技能の損失分が特に大きく、必ずしも効率的な転職が行われていない状況にあることが示された。

第2章では、公的部門と民間部門との労働力の配分過程において、どの程度労働市場の経済的条件が作用しているのかを検討した。実証結果では、公的部門のうち比較的資格要件の緩い職種ほど私的部門との給与格差に敏感に反応して入職することがわかり、経済的な要因が強く作用して選択された職種であることを明らかになった。この結果から、労働者にとって公的部門が良質な雇用機会をもたらしている可能性があることを論じた。

第3章では、これまでの外国人労働者に関する日本と米国の研究を概観した。短期の外国人フローの影響については、多くの研究が不熟練労働力の流入は国内労働者あるいは国民経済に負の影響をもたらすことを示している。しかし長期間滞在するストックの外国人労働者を対象とした研究によれば、市場の状況に依存するものの、外国人労働者は国内労働者と経済的に均等化する傾向があることがわかった。

第4章および第5章では、日本に長期滞在し、定住化した外国人労働力の職種や賃金構造を検討している。とくに第4章では定住外国人の基本属性を明らかにし、職種分布の変化を論じた。続く第5章では定住外国人の賃金構造を日本人と比較し、その特徴を考察した。これらの分析から、戦後50年間で外国の不熟練労働力がホワイトカラー化し、また近年では内部化する動きが認められることを明らかにし、一部に日本人労働者との所得の平準化が達成されている可能性があることも示した。ただし、その「同化」のスピードは緩やかであり、今後の外国人労働力の受け入れの際には、長期的な教育投資政策が重要であることを論じた。

終章では、各章の結果を要約し、その含意を述べた。

論文審査の結果の要旨

本論文は、日本の労働市場の需給調整機能を、入職・離転職における賃金と技能評価の問題、外国人労働者の定着と経済的同化の問題、という二つの側面から分析している。

いずれの問に対しても、指定統計の整理と個票を用いた計量経済学的分析を展開し、調整機能としての人事処遇制度（技能評価と賃金の決め方）と教育投資効果の重要性を指摘しており、政策的含みを多く持つ知見を得ている。本論文は博士（経済学）の学位論文として十分価値あるものと判断する。